

「やっぱり左官の仕事はおもしろいですよ」と笑う川内六男さん(高知市春野町芳原の作業場)



土佐漆喰でランプシェード

【土佐】吾川郡いの町の元左官職人の川内六男さん(70)

川内六男さん(70)が、土佐漆喰のランプシェードを作っている。現役時代にお世話になった人への贈り物で、「感謝の気持ちを込めて差し上げたい」と制作に励んでいる。

川内さんは中学卒業後、左官の道へ。2003年には、県が熟練技能者らを認定する「土佐の匠」に選ばれた。春野陸上競技場や高知城歴史博物館の床や壁など、県を代表する施設も手掛けた。18年末に第一線を退いて以降は、作業場のある高知市春野町で趣味の畑作業や漆喰を使った置物作りなどを楽しんでいる。

ランプシェード作りは、今年に入り家族から「部屋に置

いの町

元左官職人の川内さん

「感謝込め」友人らに配布

「用に欲しい」と言われたのがきっかけ。2週間ほどで高さ約30センチ、幅約18センチのランプシェードを完成させた。「いつもはけちっぽかり言う嫁さんが喜んでくれた」と川内さん。現役時代にお世話になった友人や近隣住民らにも贈ることになった。

喜んでもらえたが、川内さんは「本当に満足がいくもんはなかなかできてない」。趣味の中にも、匠のこだわりが息づいている。

今年いっぱいにはランプシェードを作り、その後は別の漆喰作品にも挑戦したいという川内さん。「現場へ行きよった時は多くの人に支えてもらった。これからも無理のない範囲で作ってお世話になった人たちに喜んでもらえたら」とほほ笑んだ。

(山崎友裕)



雰囲気たっぷりの漆喰ランプ (いの町の川内さん宅)